

令和2年度 第51回千葉県中学校新人バスケットボール大会 総評

第51回千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は、今般の新型コロナウイルス感染症予防の観点から、チームや役員が集中することを避けるため1日の試合数を4試合に限定したため、11月8日(日)、11月14日(土)、15日(日)、21日(土)の4日間にわたり、富津市総合社会体育館をメイン会場として行われた。

男子のベスト4には、大会2連覇をねらう船橋市立葛飾中学校(船橋)を筆頭に、大会初のベスト4入りを果たした松戸市立常盤平中学校(松戸)、15年ぶりに準決勝に駒を進めた千葉市立椿森中学校(千葉)、そして、強豪八千代松陰中学校(八千代)が顔を連ねた。準決勝Aコートの葛飾VS椿森は、激戦を制し葛飾が決勝進出。Bコートの八千代松陰VS常盤平は、常盤平が粘りを見せるが、八千代松陰が制し決勝進出となった。

男子決勝戦、八千代松陰はハーフコート、椿森はオールコートのマンツーマンディフェンスでスタート。椿森は#4清水を中心としたオフェンスを展開。八千代松陰は#7渡邊と#10関がインサイドやジャンプシュート、#7渡邊、#5小張のインサイドを中心に試合を展開。中盤、椿森は#5村上を中心に3Pやジャンプシュートで攻める。八千代松陰は、ディフェンスリバウンドからのブレイクやインサイド、3Pと多彩な試合運びでリードを広げた。第4Q、椿森は疲れを感じさせないディフェンスでパスカットを連発し、#4清水を中心に、カットインや3Pで追い上げを見せる。八千代松陰は流れをつかめない中、ブレイクを確実に決め、前半のリードを生かしながら試合を進める。終盤、椿森は驚異的な追い上げを見せたが、最後は68対95で八千代松陰が王者の貫禄を見せ、優勝を決めた。

一方女子のベスト4は、3年ぶりの女王奪還をねらう昭和学院中学校(市川・浦安)、連覇を狙う市川市立第三中学校(市川・浦安)、同地区3位の市川市立第七中学校(市川・浦安)と、2年ぶりの優勝を目指す翔凜中学校が名を連ねた。準決勝Aコートの昭和学院VS市川七は、市川七の選手たちの最後まで諦めない姿勢が光るも、昭和学院が終始リードを守り決勝進出。Bコートの市川三中VS翔凜中は、接戦の末で市川三中が決勝に進出した。

女子決勝戦、昭和学院中学校(市川・浦安)VS市川市立第三中学校(市川・浦安)は両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。序盤、昭和学院は#5月松のシュートで先制し。その後も#5月松を中心にオフェンスを展開。対する市川三は#4武藤のゴール下やミドルシュートで応戦。互いに厳しいディフェンスを展開する中、一進一退の攻防となる。後半、昭和学院は#4藤原のドライブや#5月松のシュートで連続して得点するも、市川三も#4武藤や#8牧野のドライブや速攻で応戦し互いに譲らない展開が続く。昭和学院リードのまま迎えた終盤、市川三中は#4武藤のドライブや#5和田のゴール下で何とか食らいつくが、昭和学院はフリースローも確実に沈め、最後まで試合をコントロール。市川三も粘り強く戦ったが昭和学院中が3年ぶりの優勝を決めた。

今大会は、バスケットボール専門部が「新型コロナウイルス感染症感染拡大防止ガイドライン」を作成し、大会2週間前からの検温及び「健康チェックシート」の作成義務化や、無観客試合の徹底、試合ごとのチーム選手、役員の入替え及びベンチ等の消毒、会場入場時の検温など、様々な対策を徹底して実施された。このような対策を丁寧に行ってくださった大会関係者の尽力があり大会を無事に終えることができた。ウィズコロナの時代において、部活動で努力を重ねてきた子どもたちが活躍する場を保障することができたことは、非常に価値のあることであろう。

末筆ながら、感染症対策に追われる非常に難しい大会の運営に、献身的に携わってくださった木更津・袖ヶ浦、君津、富津支部の先生方、TOや会場準備など試合がなくとも運営に尽力いただいた支部外の先生方、千葉県バスケットボール関係者の皆様、無観客試合及び感染症予防ガイドラインにご理解、ご協力くださった保護者の皆様の支えにより大会を無事終えられたことに、心より感謝申し上げます。